2024 年度日本語教育学会春季大会 一般公開プログラム 開催報告

複言語・複文化主義と日本語教育

―教師養成及び教育実践現場の課題と展望―

主催：公益社団法人日本語教育学会

企画：調査研究推進委員会

助成：一般社団法人尚友倶楽部

日時：2024 年 5 月 25 日（土）10:00-12:00

参加者：745 人

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。今回のプログラムでは、日本語教育に携わる方々を招き、「複言語・複文化主義と日本語教育―教師養成及び教育実践現場の課題と展望―」をテーマに、①教師の養成の課題および教育実践の現場の課題について共有し、理解を深めること、その上で、②複言語・複文化主義の考えをもとに、今後の日本語教育の在り方を探り、どのような教師を育成し、日本語教育を実践していくかを考えることをねらいに、企画されました。

登壇者は五十音順に、ヴォロビヨワ・ガリーナ氏（キルギス共和国 元ビケシク国立大学東洋国際関係学部日本語日本文学学科 准教授）、亀田美保氏（大阪 YMCA 日本語教育センター センター長）、名嶋義直氏（琉球大学グローバル教育支援機構 教授）、李在鎬氏（早稲田大学大学院日本語教育研究科 教授）の 4 名でした。まず、4 名の登壇者に、それぞれどのような立場で日本語教育に携わっているか、そこから考える「複言語・複文化主義と日本語教育」についてお話をいただきました。その後、「複言語・複文化主義とはどのようなものか。また、それらの課題とは何か」「複言語・複文化主義を実現するために、どのような素養、技能、知識を備えた日本語教師が養成されるべきか。また、そのためには何が必要か」「複言語・複文化主義の視点から、多様な背景を持つ日本語教師同士での協働をどう実現していくか」という 3 つのテーマについて、ディスカッションをしていただきました。ディスカッションは司会のランブクピティヤ・ディヌーシャ調査研究推進委員会委員のもとで順調に展開され、視聴者は最大 745 名にも上り、多くの質問も寄せられました。

開催後のアンケート（回答数 197）では、内容についての 4 段階評価のうち、「大変よかった」が 61.9%、「よかった」が 36.5%で、合計で約 98%の肯定的な評価が得られました。自由記述部分では、「非常にアカデミックな内容でありながら、一日本語教師の私にもすぐ取り掛かれるヒントが得られ、有意義なものだった。」「登壇者の人選が絶妙だった。複言語複文化というテーマについて異なる角度から話を聞くことができた。」というような肯定的な感想、意見が多く集まりました。一方、「個人が『こうありましょう』という啓

蒙にとどまっていた。公的な場所での議論としては、状況を変えるために、制度や組織、仕組みなど、構造的問題に踏み込んで議論することが必要なのではないか。」「複言語・複文化の主義やコンセプトは、数年前から議論されているので、どのように教育現場に落とし込むか、また教員間で実践していくのかといったことを議論してほしかった。」等の意見も寄せられ、課題があることもわかりました。

また、運営については、「大変よかった」が 65.5%、「よかった」が 32.0%で、合計で約 98%の肯定的な評価が得られました。自由記述部分では、「司会・運営が素晴らしく、きちんとまとめてくれたので、うっかり聞き逃しがちなウェビナーの情報も再確認することができた。」「質問が多数入っていたが、チャットのほうで全て回答があり、定刻に終了となっていた。素晴らしい方法だと思った。」という肯定的な感想、意見がありました。その他、「登壇者の立ち位置や話す内容について予稿集に概要を記すか、当日の配布資料を配信して欲しかった。資料が何も残っていないためただ聞いただけで終わってしまい、後から振り返るのが難しい。」という要望や、「台本を聞いているようなディスカッションで、あまりおもしろくなかった。」「最初の 4 人の方の自己紹介は、理解のために必要でしたが、それで 1 時間終わってしまった。もう少し短くできればよかった。事前プロフィールを読ませるなど。」という指摘や意見がありました。

本プログラムの円滑な実施のために、一般公開プログラム企画運営担当一同は、登壇者との事前の打ち合わせやリハーサルを複数回重ねてきました。当日は通信のトラブルもなくディスカッションは順調に進みました。

今回の成果および反省点を踏まえ、今後よりよいプログラムを届けられるように尽力していきたいと思います。

当日のプログラム動画（全編）は、こちらからご視聴いただくことができます。

以上